

硝子の 隙から のぞいたら

青い月夜の町の角

すた／＼回ったうしろ影

さんたくらうすの小父さんか

山の学校

山の学校にや先生がひとり

小使部屋にや鴉の子

雪降りや いつでも日曜日

先生が囲炉裏ゐろりで独り言

山中暦日なしの心持です。

明き家

私の家が一番地

あなたのお家が三番地

中の二番地戸が閉まり

青い芭蕉の影ばかり

人の住まない家に対する小供ことに女の児たちの感ずるか
るい不気味さと、また、一寸のぞいて見たい好奇心です。

霜の兒ども

御覧、しづかにあの窓を

こんな夜更けに、お月夜に

霜の兒どもが、来てゐるよ